

7. トルコギキョウの若苗定植における種子冷蔵併用効果			
[要旨] トルコギキョウの <u>若苗定植</u> による秋出し作型において、 <u>種子冷蔵</u> を組み合わせると <u>ロゼット回避</u> 効果が高まり、切り花品質も向上する。			
研究室名	中山間農業研究室	連絡先	0868-57-2758

[背景・ねらい]

トルコギキョウの秋出し作型では、固化剤を用いた若苗定植によってロゼット率が低下するものの、十分な効果は得られない。そこで、ロゼット回避効果のある種子冷蔵との併用効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 種子冷蔵区は初期生育が優れ、株のそろいが良かった。
2. 6月15日播種では30日育苗の若苗定植でロゼットが回避できた。しかし、より高温となった7月1日播種では若苗定植だけではロゼット回避できず、種子冷蔵と組み合わせることによって回避できた。(表1)
3. 切り花品質は種子冷蔵区が優れ、切り花長が長かったが、15日苗と30日苗には差がなかった。(表1)
4. ‘あすかの粧’で同様の試験を行ったところ、ロゼット回避効果は不完全であった。(データ省略)

以上の結果、トルコギキョウの若苗定植による秋出し栽培において、種子冷蔵を組み合わせるとロゼット回避効果が高まり、切り花品質が向上した。なお、これらの効果は品種によって異なると考えられた。

[成果の活用面・留意点]

1. 播種後に充分灌水し、冷蔵処理中は培土が乾燥しないように注意する。
2. 種子冷蔵は10℃、暗黒条件、35日間行う。
3. 育苗日数45日未満の若苗は固化しなければセル苗として定植できない。
4. 従来の試験で種子冷蔵効果の確認された品種を用いる。なお、平成13年度に県内で栽培されている新品種については現在効果を確認中。

[具体的データ]

表 1 種子冷蔵がロゼットと切り花品質に及ぼす影響

ロゼット回避方法	育苗日数	セルレイの穴数	切り花日	切り花長 ± 偏差 (cm)	茎径 (mm)	切り花重 (g)	節数	花らい数	ロゼット率 (%)
6 月 1 5 日 播種									
種子冷蔵	15日	406	9.19	61 ± 4.3	4.2	30	5.5	5.1	0
	30日	288	9.21	62 ± 3.3	4.2	34	5.3	5.2	0
無処理	30日	288	10.11	52 ± 5.6	4.3	34	5.5	5.0	0
	45日	〃							100
	60日	〃							100
7 月 1 日 播種									
種子冷蔵	15日	406	10.23	60 ± 4.8	4.8	46	5.6	5.4	0
	30日	288	10.23	61 ± 4.2	4.7	44	5.7	5.5	0
無処理	30日	288	年内開花せず 発蕾あり						50
	45日	〃						100	
	60日	〃						100	

a) 品種はあすかの空。

b) 種子冷蔵は吸水種子に播種日の35日前から10℃の低温処理を行った。

c) 育苗、栽培は、50%の遮光下で管理した。

d) 12月28日で調査を打ち切った。

[その他]

試験研究課題名 : 固化剤を用いた地域特産花きの新育苗システムの開発

予算区分 : 県単

研究期間 : 平成11年～13年

関連情報等 : なし